

授業科目名	老年看護学実習 (2300406)		
時間割名	老年看護学実習 (70226)		
時間割担当	吉村雅世		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

本実習の目的は病院に入院している老年期にある対象者の発達段階および老化の特徴・健康障害による問題を把握し、対象者を全人的に捉えながら健康障害のレベルに応じた適切な看護を提供できる能力を養うことである。そのために、1人の入院患者を受け持ち、看護過程を展開し、健康障害を科学的・客観的に捉えると共に、全人的視点から高齢者の健康回復へ看護を実践する。

学習の到達目標

1. 治療が必要な高齢者を全人的に理解し、看護過程を展開することができる。
2. 対象者および家族に関わる保健、医療、福祉の実際と看護の機能について理解することができる。
3. 看護学生として適切な態度、姿勢で実習に臨むことができる。

授業方法・形式

1. 臨地実習

授業計画

1. 病棟において2週間の実習を行う
2. 高齢患者1名を受け持ち看護過程を展開する
3. 詳細は老年看護学実習要項で示す

成績評価の基準

1. 5分の4の以上の出席をもって評価を行う
2. 自己評価内容と同じ評価項目を基に、実習への取り組み、記録物や提出状況、臨地指導者の意見等を含め総合的に評価する。

授業時間外の課題

学習のノート（ファイルでも可）を作成し、学習した内容をまとめていく内容

1. 高齢者とのコミュニケーション技術
2. 高齢者に多い疾病 介護特定疾病の16項目
3. 高齢者に多い症状・徴候 老年症候群
4. 実習施設のある地域の性質 高齢化率 アセスメントするため情報 産業・福祉制度等者の社会的、文化的情報
5. 高齢者が入院・入所する施設の概要
療養病床 療養病棟 介護保険施設（介護保険により運用される施設）等
施設の種類 設置主体 設置目的 看護職員の配置 入所基準 看護の役割 生活スペース 一般の病床との違い 等
6. その他 復習の必要な内容
基礎看護技術 フィジカルアセスメント、生活援助技術 等
専門基礎科目 人体機能学、人体構造学、病理学、薬理学

メッセージ

実習に当たっては、誰にも快く笑顔で挨拶する。看護実践に当たっては指導者とコミュニケーションを密にし、報告、連絡、相談を欠かさない。学習面では、学んだ知識をしっかりと活用し実践に活かす。老年看護学概論、老年看護学援助論で学んだことを基に、高齢者個々の個性・特徴を踏まえた看護が展開できるように努力してほしい。

教材・教科書

参考書

- 「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
- 「ナーシンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実践」メディカ出版
- 「看護実践学老年看護学」ピラールプレス
- 「QOLを高める専門看護・介護を考える」中央法規